令和7年８月18日

佐賀障害者職業センターからのお知らせ

誰かの役に立つ実感を、働く力に　～職場を見直す視点～

→
→
→

「働く広場」2025年８月号

このたび、当機構より**「働く広場　2025年8月号」**を発行いたしました。

今号では、20ページより「編集委員が行く」のコーナーの中で「株式会社スワン」の取り組みをご紹介しています。同社はヤマトホールディングス(株)の特例子会社で、故・小倉昌男氏がスタートさせたことでも知られています。

記事では、障害のある方々が「感謝される仕事」に携わながら、働く喜びと幸せを感じている姿や紳士な働きぶりが丁寧に描かれています。

この取り組みを読んでいて、私は『働く広場　2019年11月号』の巻末「読者の声」に掲載された、ある精神障害のある方の投稿を思い出しました。社内の会議室整備の仕事（プロジェクター等機材の動作確認、ペンやクリーナー等が使える状態になっているかの確認、清掃等）に携わる中で、次のような言葉が綴られていました。

「自分たちの業務により、会議室の、そして会社の状態が少しでも整い、社員がみんな、気持ちよく働けることに喜びを感じます。障害があってもできる業務を通して、自分がささやかながら何かの、だれかの役に立っていることを実感します。」

この文章は、「一隅を照らす」という題で紹介されていました。働くことの意味や、仕事の尊さが凝縮されており、**「この仕事は誰の、何の役に立っているのか？」**の問いに対して、働く本人が自信を持って答えられる環境作りの大切さをあらためて感じさせてくれます。

ぜひ、次のような視点で職場を見直してみてください。

- 障害のある人が従事している仕事は、社内や社会においてどんな価値を生んでいるか？
- その価値が本人や周囲の社員に伝わっているか？
- 感謝の言葉やフィードバックが、社内で自然に交わされているか？

当センターにおいても、そうした職場づくりを支えるパートナーとして、皆様からのご相談をお待ちしています。